

令和3年度事業報告書

公益財団法人徳川黎明会

I. 管理部門

令和3年度は、依然として収まらない新型コロナウイルス感染の拡大防止を念頭に置き（以下、本報告書においては、「感染症拡大予防の観点」と記載）、引き続き、本部、徳川林政史研究所、徳川美術館、全事業所において、役員並びに来所者、各施設の安全衛生管理の徹底に努め、それぞれにおける事業継続と推進に専念した。

1. 業務執行体制

本年度は、相談役1名の退任、総務部における人事刷新があり、業務の維持・運営に支障が生じぬよう、各種引継ぎ、情報共有等をはじめ、残された問題・課題の解消に努め、見直し改善を図るとともに、法人事業活動を推進すべく、引き続き、研究所、美術館との連携、協調、協力に尽力し、全般を統括した。

2. 寄附公募活動

本年度も、引き続き、美術館、研究所と連携し、寄附を広く募った。また、初めての試みとなるクラウドファンディングを実施し、徳川美術館運営のための尊い寄附を得た。

3. 監事監査

令和3年度の業務・会計等監査について、下記のとおり執り行われた。

日時： 令和4年6月6日/13時00分より14時25分まで

場所： 当財団/本部会議室

対象： 業務、会計、理事の職務執行

4. 理事会・評議員会

(1) 理事会

・ 第1回（定時）

日時： 令和3年6月8日/13時00分から14時44分まで

場所： 当財団/本部会議室

議案： 第1号議案/令和2年度事業報告について

第2号議案/令和2年度収支決算について

第3号議案/令和3年度定時評議員会開催について

第4号議案/八雲産業株式会社との施設賃貸契約について

結果： 全議案について、出席理事一同異議なく議決された。

・ 第2回（定時）

日時： 令和4年3月25日/15時00分から16時54分まで

場所： 当財団/本部会議室

議案： 第1号議案/令和4年度事業計画について

第2号議案/令和4年度収支予算について

第3号議案/令和4年度資金調達及び設備投資の見込みについて

第4号議案/徳川黎明会規程の改定について

第5号議案/特定資産取扱規程の制定について

第6号議案/資産運用規程の改定について

結果： 全議案について、出席理事一同異議なく議決された。

(2) 評議員会

・ 第1回（定時）

日時： 令和3年6月25日/13時00分から14時40分まで

場所： 当財団/本部会議室

議案： 第1号議案／令和2年度収支決算について

結果： 本議案について、出席評議員一同異議なく議決された。

5. 官庁申請・届出・報告

・ 内閣府関係

下記について、電子申請システム（公益 Information システム）経由にて提出・報告した。

令和3年6月 令和2年度事業報告および収支決算

令和4年3月 令和4年度事業計画および収支予算

・ 労務関係

下記について、池袋労働基準監督署および名古屋北労働基準監督署に届出た。

令和4年3月・4月 36協定書

※ その他、国ほかによる各種調査に協力した。

6. 役職員等の状況（令和4年3月31日現在）

(1) 役員等

評議員6名、役員7名、相談役1名、合計14名

① 評議員

職位	氏名	現職
評議員会長	田中 秀隆	(公財)三徳庵理事長
評議員	太田 宏次	(公財)東洋医学研究財団名誉理事長
評議員	小林 喬	富国生命保険(相)特別顧問
評議員	濱本 英輔	(株)ハーフ・センチュリー・モア顧問
評議員	原 俊夫	(公財)アルカンシエール美術財団理事長
評議員	室瀬 和美	(株)目白漆芸文化財研究所相談役

② 理事

職位	氏名	現職
代表理事(会長)	徳川 義崇	徳川美術館館長・八雲産業(株)代表取締役
常務理事	深井 雅海	徳川林政史研究所所長
理事	小林 忠	岡田美術館館長・学習院大学名誉教授
理事	徳川 斉正	(公財)徳川ミュージアム理事長
理事	前田 利祐	(公財)前田育徳会評議員

③ 監事

職位	氏名	現職
監事	降旗 京二	降旗公認会計士事務所所長
監事	松平 頼昌	(学)本郷学園理事長

④ 相談役

職位	氏名	現職
相談役	竹内 順一	東京藝術大学名誉教授

(2) 職員等

区分	常勤	非常勤	計
職員	21	1	22
雇員	5	0	5
嘱託	1	4	5
臨時	0	22	22

派遣	3	0	3
合計	30	27	57

(3) 協力者等

区分	常勤	非常勤	計
参与	0	6	6
特任研究員	0	15	15
非常勤研究員	0	11	11
非常勤研究生	0	6	6
非常勤学芸員	0	3	3
合計	0	41	41

II.公益目的事業

[公益目的事業 1] 美術館の運営事業（徳川美術館）

令和3年度、徳川美術館においては、引き続いたコロナ禍の下にあつて、前年度のようなやむなき臨時休館にまでは至ることなく、様々な感染拡大防止策を講じながら通常開館を継続し、計10本の特別展・企画展、名品コレクション展示に加え、「国宝 源氏物語絵巻」修復完了記念特別公開を実施した。しかしながら、年度を通じての入館者数は、当初見込みの13万人には達せず、約10.4万人の結果（通常年度に比し、約50%程度）となった。このような状況下、2年度連続した来館者数の大幅な減少を補うための収益確保が課題となり、本年度においては、初めての試みとなるクラウドファンディングによる寄附金公募（2,500余名の方々より、約2,950万円のご寄附をいただいた）、計11回のナイト・ミュージアムの実施、展覧会（特に刀剣関係）に関連したミュージアムショップ新商品の開発・製作、ソーシャル・メディア（SNS）を通じた商品告知、オンラインショップの拡充、首都圏向けの期間限定出店や、外部事業者と連携したネット通販の開始等による収益事業の拡充など、新規の取り組みを含め、コロナ禍による財務面へのマイナス影響を最小限に抑えるべく努めるとともに、美術館事業の安定的な運営とミッション遂行に尽力した。令和2年度から継続中の文化観光拠点計画については、自己調達分の財源不足による観点から、最低限の設備更新にとどめざるを得ず、新館展示室のLED照明拡充、展示ケースの新規更新等を行うとともに、下半期（10月～3月）には、文化庁委託による計画策定・実施上のコーチングを受け入れた。また、文化財修復事業については、「国宝 初音の調度」の修復を継続した（令和4年度完了予定）。

1. 美術品の展示・公開・保存・修理・収集

(1) 展示・公開

事業計画に基づき、以下の展示・公開を行った。これにより、①,②,③に記載した展示による本年度の来館者数は、合計104,124名となった。

① 名品コレクション展示室（新館第1～第5展示室）

「名品コレクション展」として、年度を通じて、4回の大展示替えを行ったほか、約1か月毎に部分展示替えを実施した。特別展・企画展開催期間を除く、新館展示室のみの開館日の来館者数は、合計3,970名であった。

期間1 (a.3月30日～4月27日	b.4月28日～5月25日	c.5月26日～6月20日)
期間2 (a.6月22日～7月20日	b.7月21日～8月24日	c.8月25日～9月20日)
期間3 (a.9月22日～10月17日	b.10月19日～11月16日	c.11月17日～12月12日)
期間4 (a.1月4日～1月30日	b.2月1日～3月1日	c.3月2日～3月27日)

このうち、第1展示室では、「名刀セレクション」、第5展示室では、「国宝 初音の調度」と題し、年度を通じて、順次、数点ずつ展示公開を実施。期間4 b.において、「千利休 泪の茶杓」（2月19日～3月1日）の特別公開を行った。なお、第6展示室では、年度を通じ、「国宝 源氏物語絵巻（複製）」および同絵巻の解説（動画映像を含む）を展示した。

② 特別展（本館第7～第9展示室）

事業計画に基づき、以下の特別展を開催し、来館者数は、合計92,731名となった。

- a. 4月18日～5月30日 特別展「刻を描く 田淵俊夫」
中日新聞社、日本経済新聞社共催
来館者数計 7,574名
- b. 6月5日～7月11日 特別展「名刀紀行—京・大和と九州—」
来館者数計 14,989名
- c. 7月17日～9月12日 夏季特別展「家康から義直へ」
名古屋市蓬左文庫、中日新聞社、日本経済新聞社共催
来館者数計 19,227名

- d. 9月18日～11月7日 秋季特別展「尾張姫君ものがたり」
名古屋市蓬左文庫、中日新聞社、読売新聞社共催
来館者数計 11,541名
- e. 11月13日～12月12日 修復完了記念 館蔵全巻特別公開「国宝 源氏物語絵巻」
来館者数計 23,014名
- f. 2月5日～4月3日 特別展「尾張徳川家の雛まつり」
中日新聞社共催
来館者数計 16,386名（期末、3月31日まで）、18,023名（会期末、令和4年4月3日まで）

③ 企画展（名古屋市蓬左文庫展示室）

事業計画に基づき、名古屋市との協力の下、以下の企画展を開催した。d.の展覧会の来館者数は、合計5,732名であった。a.b.c.e.の各展覧会は、上記1.(1)②a.b.e.f.と同時開催のため、来館者数は同一である。

- a. 4月18日～5月30日 企画展「うるわしき花と鳥」
上記1.(1)②a.と同時開催
- b. 6月5日～7月11日 企画展「あかがね／くろがね」
上記1.(1)②b.と同時開催
- c. 11月13日～12月12日 企画展「唐絵－尾張徳川家の中国絵画－」
上記1.(1)②e.と同時開催
- d. 1月4日～1月30日 企画展「浮世絵で旅気分」
毎日新聞社共催
来館者数計 5,732名
- e. 2月5日～4月3日 企画展「年中行事の今と昔」
上記1.(1)②f.と同時開催

④ 特別公開（新館第2展示室）

2月19日～3月1日、「千利休 泪の茶杓」の特別公開を実施した（毎年度と同様）。

⑤ 特別観覧

- a. 研究者等特別観覧（当館収蔵庫）
大学等学術・研究機関、外部美術館等からの要請に応じ、特別観覧を実施した（全18件）。
- b. 徳川茶会（茶室餘芳軒・山ノ茶屋、および宝善亭）
年度当初10月10日,11日,17日,23日,24日,30日,31日,11月3日,7日の9日間の開催を予定したが、感染症拡大予防の観点から、全て中止とした。

⑥ 夜間開館（トクガワ・ナイト・ミュージアムの実施）

6月19日,26日,7月3日,24日,31日,8月7日,13日,14日,21日,11月20日,12月4日の11日間、観覧人数を制限し、特別料金にて、趣向を凝らした夜間の特別開館を実施した。（合計659名）

⑦ 館外展示

石川県立歴史博物館に収蔵品115件を出陳し、同館開館35周年記念 秋季特別展「徳川美術館展 尾張徳川家の至宝」展を実施した（10月9日～11月23日）。

⑧ 他館主催展覧会への収蔵品出陳

サントリー美術館「特別展 刀剣 もののふの心」（9月15日～10月31日）、九州国立博物館「文化交流展示 海の道、アジアの路」（1月1日～1月30日）など、他館主催の展覧会に対し、延べ8館、延べ51件の収蔵品（うち、複製品1件、備品1件）を出陳した。

⑨ 他館ほか所蔵者からの借用作品展示

各特別展・企画展をテーマに即し、合計229件の作品を借用し、展示した。

⑩ 他館との共同展示企画

「大蒔絵展」出陳交渉・図録作成（MOA美術館・三井記念美術館・朝日新聞社）

(2) 保存・収集・修理

① 保存・収集

以下の普通美術品を受贈した（計 27 件）。

「水野太郎左衛門家伝 大銃鑄方」（一式）など鉄炮関係史料 26 件、「澤庵宗彭書状 小出大和守宛 六月廿日」（一幅）。

② 修理

以下の修理を実施した。また、これに伴う自己負担分費用について、徳川美術館活動支援基金を充当した。

a. 基本美術品（計 3 件）

- ・ 国宝 婚礼調度類（徳川光友夫人千代姫所用、「国宝 初音の調度」）

初音蒔絵書棚（棚囲い・龍膽七宝繫）一基

初音蒔絵書棚（棚囲い・七宝繫）一基

胡蝶蒔絵書棚 一基

国宝重要文化財等保存・活用事業費（国庫補助美術工芸品保存修理事業）、文化財保存事業費（愛知県文化財保存事業）、（公財）住友財団文化財維持・修復事業による助成を受け、修理した。

b. 普通美術品（計 2 件）

- ・ 白・納戸細格子と茶・花色・黄・赤・白横縞腰替熨斗目 一領

（公財）三菱財団文化財修復事業助成を受け、修理した。

- ・ 有職雛 男雛（束帯姿） 一体

徳川美術館活動支援基金を充当し、修理した。

(3) 収蔵品撮影（館内）

各展覧会のための広報用および図録作成に必要な撮影を行った（合計 46 件、70 カット）。

2. 調査・研究

(1) 美術館における調査・研究

事業計画に基づき、学芸部において、以下の研究を行った（括弧内は、開始年度）。

- ①館蔵品悉皆調査（昭和 63 年度）、②尾張徳川家御道具帳のデータベース化（平成 27 年度）、③尾張徳川家関係寺社蔵品調査（昭和 58 年度）、④尾張徳川家に関連する政秀寺所蔵什宝の調査（平成 20 年度）、⑤幕末明治浮世絵の研究（令和 2 年度）、⑥尾張藩御用絵師の研究（令和 2 年度）、⑦大名家における絵師の絵画活動についての研究（平成 6 年度）、⑧尾張における画家の活動についての研究—田中訥言を中心に—（平成 11 年度）、⑨武家女性の生活史の研究（平成 29 年度）、⑩尾張徳川家旧蔵の古典籍および文書についての研究（平成 8 年度）、⑪渡来織物の調査研究（平成 29 年度）、⑫近世狩野派の研究（平成 24 年度）、⑬戦国合戦図の総合的研究（平成 28 年度）※、⑭戦国軍記・合戦図の史学的研究（令和 2 年度）※、⑮江戸初期絵画の研究（平成 24 年度）、⑯尾張徳川家茶頭の研究（令和 2 年度）、⑰尾張徳川家の仏教絵画の研究（令和 2 年度）、⑱高雄曼荼羅の復元と空海の造形観の研究（平成 30 年度）※、⑲尾張徳川家に関する古典籍および古文書の研究

※ ⑬は、東京大学史料編纂所特定共同研究、⑭は、共立女子大共同科学研究、⑱は、京都国立博物館共同科学研究として、それぞれ文部科学省科学研究費の助成の下で実施した。

(2) 徳川林政史研究所との連携による研究（前年度より継続）

以下、各項の調査・研究等を引き続き行った。

- ① 尾張徳川家歴代藩主に関する史料調査・研究
- ② 尾張徳川家関連史料に関する基礎調査・研究
- ③ その他、展示・教育普及事業への協力および研究交流の促進

(3) 収蔵品データベースの整備（前年度より継続）

以下、各項の作業を引き続き実施した。

- ・ 調書作成・入力
- ・ 写真データ作成・入力
- ・ 展示作品リスト・キャプション用データ整備・入力
- ・ リスト・キャプションの作成
- ・ 作品の写真撮影
- ・ 作品情報のデータベース化等

(4) 研究用図書類の整備

① 図書（購入計 42 冊、受贈計 228 冊）

『中国絵画総合図録』（東京大学出版会）、『永青文庫叢書 細川家文書』（熊本大学永青文庫研究センター／吉川弘文館）、『御製全真群仙集』（文物出版社）などのほか、『史料纂集 古記録編』（八木書店）、『大日本史料』（東京大学出版会）ほかの書籍を購入し、『古鎧威毛式目』、『陽明文庫蔵 重要美術品 宇治拾遺物語絵巻』（勉誠出版）、『茶の湯の茶碗』（淡交社）ほかの書籍を受贈した。

② 雑誌（購入計 106 冊、受贈多数）

『國華』（國華編集委員会編／國華社）、『史学雑誌』（史学会）、『仏教芸術』（中央公論美術出版）などの定期購読のほかの雑誌を購入し、『茶道の研究』（大日本茶道学会／三徳庵）、『美術研究』（東京文化財研究所）、『MUSEUM』（東京国立博物館）『茶の湯文化学』（茶の湯文化学会）ほかの雑誌を受贈した。

(5) 研究成果の公開・公刊

以下の通り、研究成果を公開・公刊した。

① 定期研究発表会

1月23日（第78回）	『建中寺墓地改葬日誌』について	安藤 香織（学芸員）
3月26日（第79回）	「尾張徳川家伝来の楽器」	並木 昌史（学芸員）

② 図録、研究紀要等

a. 特別展図録の作成・配布

特別展「刻を描く 田淵俊夫」に際し、図録の作成・配布。さらに、秋季特別展「尾張姫君ものがたり」に際し、名古屋市蓬左文庫との共催展実行委員会と共同図録の作成・配布。

b. 簡易リーフレットの作成

「うるわしき花と鳥」、「あかがね／くろがね」、「唐絵」の各企画展に際し、作成・配布。

c. 英文リーフレットの作成

展覧会を紹介する英文リーフレットを適宜、作成・配布。

d. 『金鯨叢書』第49輯（『研究紀要』第56号）の編集・刊行

③ 美術館だよりの編集・発行（年度内4回）

4、7、9、1月に「葵」第118～121号を編集・発行した。

(6) 大名道具収蔵館研究会（平成4年より継続）

1月18日、事前アンケート調査結果を基にオンラインで開催した（16館参加）。

3. 教育・普及

以下の諸事業を実施した。なお、講演会・講座等においては、中止・延期したものを除き、実施したものは全て、会場内の換気の確保、定員の半数以下の人数制限、テーブルの撤収と座席間の距離確保、演台へのアクリル板の設置、入室前の手指消毒とマスクの着用の確認、体温チェック、参加者の連絡先申告等、感染防止対策を行った。結果、各会における感染者の発生は確認されなかった。

(1) 特別展記念講演会

4月18日	記念対談「刻を描く」 田淵 俊夫 氏・神谷 浩（副館長兼学芸部長）
8月1日	「尾張徳川家の成立と将軍家一家康の遺命と義直一」

- 白根 孝胤 氏 (中京大学教授)
- 10月2日 「初代義直正室春姫婚礼をめぐる」
- 大石 学 氏 (東京学芸大学名誉教授)
- 11月13日 記念対談「絵巻としてよみがえった国宝 源氏物語絵巻」
- 大山 昭子 氏 (岡墨光堂修復部前部長)・四辻 秀紀 氏 (特任学芸顧問)
- (2) 土曜講座「大名の生活と文化」(各講座の講師は、当館副館長および学芸員)
- 4月24日 「花と鳥」
- 6月26日 『享保名物帳』にみる京の刀剣」
- 8月7日 「東照大権現の成立と表象」
- 9月4日 「徳川義直の学問と著作」
- 9月25日 「尾張徳川家の女性たちー正室・側室・息女ー」
- 11月20日 「尾張徳川家の中国絵画」
- 1月8日 「大名行列と浮世絵風景版画」
- 2月19日 「年中行事絵の歴史」
- 3月12日 「史料からひもとく尾張徳川家ー刀装具にまつわる「金」についてー」
- (3) 刀剣講座(「名刀紀行ー京・大和と九州ー」展関連講座、日曜日午後開講)
- 6月6日 「刀鍛冶の仕事」
- 上島 宗泰 氏 (刀匠)
- 6月27日 「刀の見どころー山城・大和を中心にー」
- 福井 款彦 氏 (熱田神宮文化研究員)
- (4) 徳川林政史研究所による古文書入門講座「江戸時代の古文書を読む」(土曜日午後開講)
- 6月19日 「幼少当主を支えた付家老ー成瀬正寿を中心にー」 深井 雅海 (所長)
- 7月3日 「天保期の風俗と『関八州教諭状』」 佐藤 孝之 (特任研究員)
- 7月10日 「若き殿様 徳川斉温の江戸名所めぐり」 白根 孝胤 (特任研究員)
- 7月17日 「飛騨郡代豊田友直の天保林政改革」 萱場 真仁 (研究員)
- 7月31日 「徳川斉荘の岐阜紀行(1)」 藤田 英昭 (研究員)
- 7月31日 「徳川斉荘の岐阜紀行(2)」 藤田 英昭 (研究員)
- ※ 全て前年度より延期となった主題・内容にて開講したが、7月10日以外は、オンラインにて実施、うち、7月31日は、午前・午後ともに実施した。
- (5) 徳川林政史研究所による江戸学講座「徳川の城」(土曜日午後開講)
- 12月4日 「江戸城ー尾張藩主の登城ー」 深井 雅海 (所長)
- 1月22日 「名古屋城ー殿様の日常と御殿・庭園ー」 白根 孝胤 (特任研究員)
- 1月29日 「犬山城ー近代の成瀬家と「犬山」の人びとー」 林 幸太郎 (非常勤研究員)
- 2月5日 「二条城ー幕末の将軍上洛と徳川慶勝ー」 藤田 英昭 (研究員)
- ※ 1月29日、2月5日は、オンラインにて実施した。
- (6) 担当学芸員の見どころガイド
- 感染症拡大予防の観点から、十分な対策を施した上で、従来の「ギャラリートーク」に代わる、講堂における短時間の「見どころガイド」として、特別展「刻を描く 田淵俊夫」、特別公開「国宝 源氏物語絵巻」、企画展「あかがね／くろがね」、「唐絵」において、各担当学芸員が、合計4回実施した。
- (7) 特別展・企画展関連企画
- ① 企画展「うるわしき花と鳥」関連
- 5月23日 徳川園共同講座「徳川園季節の草花と「うるわしき花と鳥」
- 堀田 恭史 氏 (徳川園技師)・安藤 香織 (学芸員)
- ② 企画展「浮世絵で旅気分」関連
- 1月9日 「江戸文化講座」浮世絵からの講談

旭堂 鱗林 氏（講談師）

1月16日 「江戸文化講座」江戸の寄席文字体験

橘 右太治 氏（寄席文字職人）

③ 特別展「尾張徳川家の雛まつり」関連

a. 文化のみち雛巡りシール・ラリー（2月5日～3月6日）

b. オリジナル香袋・文香をつくる体験講座（3月27日）

c. お姫様の遊び 貝合わせ「体験&制作」講座（2月23日,3月10日）

感染症拡大予防の観点から、中止した。

d. 展覧会の見どころを紹介する動画を作成し、YouTube「徳川美術館チャンネル」において公開するとともに、館内ホールで放映し、また、ホームページに掲載した。

(8) 組香体験（個人向け）は感染症拡大予防の観点から、中止した。

(9) 土曜子ども教室の開催（小中学生向け教育・普及、小中高生の観覧料は無料）

4月3日～3月26日（計45日）、毎週土曜日、1日3回、各約60分、小学校・中学校の児童・生徒を対象に実施した。感染症拡大予防の観点から、ボランティアによるサポートは中止とし、参加者にワークシートを配布するのみとし、体験型のワークショップも中止した。

参加者延べ991名（子ども646名、大人345名）

(10) 夏休み子ども特別企画「徳川家康と徳川義直」（7月21日～8月31日）

ガイドブック・シールを作成し、館内で無料配布、クイズを実施した（配布部数計1,105部）

(11) 名刀シール・ラリー（3月30日～3月27日）

感染症拡大予防の観点から、従来のスランプ・ラリーに代え、シール・ラリーとして実施した。

参加者数延べ3,863名、7回以上参加者数計223名、全回参加者数計118名

(12) 中高生・大学生の職場体験の受け入れ（インターンシップ）

感染症拡大予防の観点から、全て見合わせた。

(13) 団体体験プログラム

感染症拡大予防の観点から、全て見合わせた。

(14) 小学校・中学校・高校・大学の生徒・学生向け体験を含めた来館プログラム

体験学習（模造刀に触れる体験後、館内を見学）に、大学2校（参加者計28名）、校外学習（美術館紹介と作品解説）に、中学校2校（参加者計12名）、大学5校（参加者計263名）、幼稚園1校（16名）オンライン授業に、高校1校（参加者計180名）の参加を得て、各々実施した。

(15) 古美術相談会

原則として、毎月第1土曜日の午後開催し、本年度は、相談件数計2件、2回実施した。その他、写真郵送等による相談件数は、計11件であった。

(16) 館外見学会の実施

見学会を予定したが、感染症拡大予防の観点から、中止した。

(17) ボランティア研修

5月7日、土曜子ども教室の研修、6月22日,7月16日,9月21日,11月12日,1月4日、企画展および品コレクション展の解説、質疑応答を行った。解説員には、企画展および名品コレクション展示室の全の解説を配布。8月には、夏休み子ども特別企画のガイドブックを参加者に配布した。

(18) 館長講演活動

本年度における講演活動はなかった。

(19) 出講・受嘱

① 出講

学芸部員計5名が、合計7の大学、文化センターほか合計2機関の講座等に出講した。

② 受嘱

学芸部員計2名が、愛知県内の市、研究機関等より、合計7件の専門委員、研究員等の委嘱を受け、

必要業務を遂行した。また、外部機関からの依頼にもとづき、随時職員を派遣した。

4. 協賛事業・事業協力・補助金事業

(1) 協賛事業・事業協力

- ① 「第100回名古屋市文化史教室 夏休み子ども教室」を、名古屋市と共催した。
- ② 「文化のみち雛巡りシール・ラリー」(文化財名古屋保存活用実行委員会「名古屋市文化遺産活用プラン」) 2月5日～3月6日、文化のみち6施設と連携し、各施設において、雛祭り関連を企画し、パスポートとシール(従来の台紙とスタンプの代替)を配布した。なお、愛知県内の博物館・資料館などを巡る「ひなまつりスタンプ・ラリー」が2月5日～3月6日に予定されたが、感染症拡大予防の観点から、中止となった。

(2) 補助金事業

- ① 文化庁令和3年度文化芸術振興費補助金(博物館等を中核とした文化クラスター推進事業)
令和2年度に「文化観光拠点施設」として認定を受け、本年度は、第2年度目の計画として、以下の項目の実施について、助成を得た。また、10月より3月まで、文化庁より、文化観光拠点としてのコーチングを受けた。
 - ・ 新館壁付き展示ケース照明 LED化
 - ・ 移動式展示ケースの更新
 - ・ 文化財管理システムの更新
 - ・ リスト台の更新
- ② 文化庁令和2年度第3次補正予算事業 ARTS for the future! (コロナ禍を乗り越えるための文化芸術活動の充実支援事業)により、修復完了記念 館蔵全巻特別公開「国宝 源氏物語絵巻」展について、助成を得た。

5. 賛助会・友の会・大学メンバーシップ

(1) 賛助会会員向け優待

以下の各項の優待を引き続き行った。

1年間の無料入館、企画展・特別展内覧会を開催、各企画展・特別展の開始日前日に賛助会員内覧会の開催(図録がある場合は、無料配布)、美術館だより「葵」および各種印刷物の配布、ショップ商品等の割引、他館との連携による各々の会員向け相互観覧料割引(五島美術館ほか4館)

本年度の会員数推移は、以下のとおりであった。

種別	前期末	今期入会	今期退会	今期末	前期対比
個人	102	17	24	95	▲7
家族	14	1	3	12	▲2
法人	45	0	2	43	▲2
合計	161	18	29	150	▲11

(2) 友の会会員向け優待

以下の各項の優待を引き続き行った。

美術館だより「葵」および各種印刷物の配布、一般会員向け1年間の無料入館制度(ただし、名古屋市蓬左文庫との共催展の観覧は、1回目のみ無料、2回目以降は、割引料金(団体料金)を適用)、一般会員向けのミュージアムショップでの割引、他館との連携による各々の会員向け相互観覧料割引(前掲(1)に同じ)

本年度の会員数推移は、以下のとおりであった。

種別	前期末	今期入会	今期退会	今期末	前期対比
一般	385	154	84	455	70

情報	10	2	3	9	▲1
合計	395	156	87	464	69

※ 一般会員のうち、22名が半期入会（4,400円）の会員

(3) 大学メンバーシップ会員向け優待

対象大学の学生と教職員の無料入館（一部学生のみ例外校あり）および対象大学への展覧会ポスター・ちらし、イベント案内等の配布・掲示を行った。会員登録校は以下のとおりであり、現在数 23 学校法人（本年度、会員校変更なし）、関連施設を含め 32 施設である。

愛知学院大学、愛知学院大学短期大学部、愛知学院大学歯科技工専門学校、愛知県立芸術大学、愛知県立大学、愛知工業大学、愛知淑徳大学、桜花学園大学、名古屋短期大学、金城学院大学*、椋山女学園大学*、中京大学、中部大学、東海学園大学、同朋大学、名古屋学院大学、名古屋学芸大学、名古屋外国語大学、菱野幼稚園、名古屋ファッション専門学校、名古屋栄養専門学校、名古屋製菓専門学校、名古屋芸術大学、名古屋経済大学、名古屋工業大学、名古屋市立大学、名古屋大学、名古屋文化短期大学、名古屋ファッション・ビューティー専門学校、南山大学、名城大学*、愛知教育大学

※ 学生のみを対象とした加入

6. 管理

(1) 新型コロナウイルス感染症対策

本事業報告各項に記述したもののほか、全館的な感染症拡大予防の観点から、以下の項目を継続した。

- ・ 従業員の安全衛生管理の徹底等
- ・ 感染症予防対策マニュアルの策定とホームページ掲載
- ・ 各所予防対策を促すサイネージ、パネル等の設置
- ・ 来館者用玄関、従業員通用口に非接触型体温計を設置
- ・ 館内各所に消毒液を設置
- ・ 展示室、講堂等出入口扉の常時開放（作品保全・防犯上可能な個所）
- ・ 空調・換気の適切な管理
- ・ 券売所、ミュージアムショップ、事務室等へのアクリル板の設置
- ・ ソーシャルディスタンスを促す足元サインの設置
- ・ 展示室・講堂への入場者数制御および人的誘導
- ・ 来館者が手を触れる設備・備品等の定期消毒
- ・ 展示室およびロビーにおける対面による展示解説の中止
- ・ ビデオルームの閉鎖
- ・ その他

(2) 観覧料金

① 前売りペアチケットの導入

来館者向けサービス向上の観点から、前売りペアチケットの割引販売を継続実施した。適用対象展覧会は、夏季特別展「家康から義直へ」、秋季特別展「尾張姫君ものがたり」（ともに名古屋市蓬左文庫共催展）および特別展「尾張徳川家の雛まつり」とし、会期前の一定期間、2枚 2,300円（1枚分 1,150円）を、オンラインチケットのみで販売した。

② オンラインチケットの活用

通常前売り券に加え、夜間開館（トクガワ・ナイト・ミュージアム）用チケットをオンラインチケットとして販売し、参加希望者の利便性向上と事務（販売管理・顧客管理等）の効率化を図った。

(3) 広報

① 本年度のメディアによる取材は、以下のとおりであった。

展覧会等	新聞	テレビ・ラジオ	雑誌・WEB等
------	----	---------	---------

刻を描く 田淵俊夫	14	1	19
うるわしき花と鳥	0	0	11
名刀紀行	6	2	12
あかがね／くろがね	2	0	6
家康から義直へ	17	0	19
尾張姫君ものがたり	12	1	18
修復完了「国宝 源氏物語絵巻」	9	0	14
唐絵	4	0	6
浮世絵で旅気分	32	0	9
尾張徳川家の雛まつり	1	4	45
年中行事の今と昔	0	0	5
その他	8	6	28
合計	105	14	192

② 有料広告として、以下の掲示・掲載を行った。

キラッ都ナゴヤ（毎月）、名古屋アートニュース（隔月）、大曽根駅南口看板（常設）、大曽根駅北口看板（常設）、電柱看板（常設）、名古屋コンシェルジュバナー広告、リスティング広告

③ ホームページ、SNS（Facebook、Twitter、YouTube、Instagram）の運用・活用

④ 徳川園をはじめとするエリア一体で、「刀剣乱舞－ONLINE－」とのコラボレーションを実施

⑤ 名古屋市交通局の100周年大型事業に協力

(4) 営業

① 団体利用促進のため、以下を行った。

- ・ 旅行会社への働きかけ（愛知・名古屋観光誘客協議会主催観光商談会、2回）
- ・ MICE 誘客の働きかけ
- ・ (公財)名古屋観光コンベンションビューローとの連携
- ・ 大学メンバーシップのルートを使用した展覧会情報の提供（ポスター・ちらし配布）

② 個人来館者利用促進のため以下を行った。

- ・ 旅行会社への広報宣伝協力を要請
旅行会社の個人旅行向けパンフレットへの情報掲載（JTB、近畿日本ツーリスト、JR 東海ツアーズ）
- ・ 前売り券の販売促進
百貨店友の会3店舗（高島屋・名鉄・大丸松坂屋）での販売
- ・ YouTube「徳川美術館チャンネル」の配信（展覧会見どころを紹介する動画14本）
- ・ 各種スランプ・ラリーの実施（外部団体と連携したものを含む）
- ・ 刀剣シール・ラリー（前掲3.(11)）
- ・ 「文化のみち雛めぐりシール・ラリー」（前掲4.(1)②）

③ 閉館後・休館日等における時間外の利用誘致

トクガワ・ナイト・ミュージアム（計11回の実施（前掲1.(1)⑥））のほか、夜間貸切り開館を実施した（計3回）。

(5) ボランティアの会

① 本年度の会員数推移は、以下のとおりであった。

	令和1年度	令和2年度	令和3年度
会員数	293	280	221

② 活動内容

公募ボランティアにより、展示室内見守り活動を行った。なお、感染症拡大予防の観点から、受付業務および体験等の活動は休止した。解説業務については、1月14日・19日・20日の3日間のみ、

ロビー解説を再開し、計 27 名の聴講があった。

(6) 徳川美術館運営懇話会

第 29 回目として、10 月に開催を予定したが、感染症拡大予防の観点から、中止とした。

(7) 徳川園各施設連絡調整会議

徳川美術館、徳川園、名古屋市蓬左文庫、宝善亭、ガーデンレストラン徳川園により、月次定例会議を開催。1 月に予定した例会は、感染症拡大予防の観点から、中止とした。

(8) 他館・博物館との連携

私立美術館会議、日本博物館協会、愛知県博物館協会等の諸活動への参加地域との連携

(9) 地域との連携

前掲 4.(1)①②に記載のとおり。

(10) 施設・設備の保守点検・営繕

2 階設備機械室の漏水対策工事、自動ドアのエンジン装置取替工事、非常照明用直流装置取替工事、室外機メンテナンス、熱源系統自動制御関係機器交換工事、新館第 1 室・2 室・3 室・4 室の壁付展示ケース照明の LED 化等、周辺民家に隣接する敷地内庭園樹木の一部伐採等を実施した。

(11) 国庫補助金による事業

前掲 1.(2)②a.に記載のとおり。

(12) 民間助成金による事業

前掲 1.(2)②に記載のとおり。

(13) 活動支援基金による事業

① 寄附金受付業務

前年度に引き続き、募金活動を行った。本年度は、従来の活動支援基金への寄附のご案内を行うとともに、初めての試みとして、11 月 2 日から 12 月 17 日まで、クラウドファンディングを実施した。結果として、活動支援基金 12,134,000 円 (2,930,000 円 (法人 16 件)、9,204,000 円 (個人 240 件))、クラウドファンディング 29,508,000 円 (2,501 名)、募金箱 1,332,524 円、お雛さまの赤い糸募金 230,121 円の寄附金を受領した。なお、当該寄附金 (活動支援基金・お雛さまの赤い糸募金) を、美術品の修復・補修費用に充当し (前掲 1.(2)②)、クラウドファンディングによる寄附金を、美術館運営費全般に充当した。

② 感謝状の贈呈

活動支援基金高額寄附者 (個人 30 口以上、法人 10 口以上) に対し、感謝状を贈呈した (個人会員 5 名、法人会員 0 社)。

[公益目的事業 2] 研究所の調査・研究・教育・普及事業（徳川林政史研究所）

令和3年度、徳川林政史研究所においては、前年度に引き続き、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、出張調査を概ね中止とするなど、当初計画の変更を余儀なくされた面も少なくなかったが、ライブ形式の講座のオンライン配信はじめ、所内研究会においても、対面とオンラインとを併用するなど、可能な限り事業を推進した。尾張藩関係の研究成果としては、若手研究者の協力の下、尾張藩第2代藩主の徳川光友の事蹟をまとめた『瑞龍公実録』を、八木書店から刊行した。林政史関係においては、引き続き、『林政史ブックレット尾張藩の林政と森林文化』1冊を刊行するとともに、尾張藩御山守の史料集『宝暦一三年 御山方御用并諸事日記』を翻刻・刊行し、着実に成果をあげている。若手研究者の育成に関しては、前年度に引き続き、在宅作業による古文書解読やデータ入力を依頼し、所員が解読指導に当たった。当該翻刻史料は、今後の史料集刊行や、研究・公開活動に活用していく予定である。なお、当研究所の活動支援基金として、330,000円の寄附が寄せられ、これを史料の補修に充当した。前年度同様、コロナ禍による影響もあったものの、オンラインの積極的な利用・活用により、研究・普及活動の面で、活路を見出すことができた。

1. 調査・研究

(1) 研究所における研究（括弧内は、開始年度）

- | | |
|---------------------------------|---------------|
| ・ 名古屋城の構造と儀礼に関する研究（平成27年度） | 深井 雅海（所長） |
| ・ 尾張藩幕末維新史の研究（平成24年度） | 藤田 英昭（研究員） |
| ・ 近世の地域社会における山林利用に関する研究（平成30年度） | 萱場 真仁（研究員） |
| ・ 徳川農場における山林事業に関する研究（令和3年度） | 林 幸太郎（非常勤研究員） |
| ・ 近世林野の実態と利用に関する研究（令和2年度） | 脇野 博（特任研究員） |
| ・ 尾張藩祖徳川義直の研究（平成30年度） | 川島 孝一（非常勤研究員） |
| ・ 尾張徳川家とその家臣団の江戸屋敷に関する研究（令和3年度） | 渋谷 葉子（非常勤研究員） |

(2) 徳川美術館との連携

① 古文書講座・江戸学講座へ講師派遣

感染症拡大予防の観点から、古文書講座は、全6回のうち5回、江戸学講座は、全4回のうち2回を、財団本部より、ライブ形式で開講し、オンラインで配信した。

② その他協力・研究交流の促進

歴代当主の事蹟や年譜、尾張藩政に関する情報を共有し、展覧会事業においても、徳川美術館学芸員との密接な連携を図った。また、対面とオンラインを併用した所内研究会に、同学芸員の参加を促して交流をはかるとともに、相互に意見交換するなど、研究を深化させるべく努めた。

(3) 研究成果の公開・公刊

① 研究会の開催

- | | |
|-------------------------------------|--------|
| ・ 7月7日 徳川林政史研究所（対面） | |
| 『瑞龍公実録』について | 藤田 英昭 |
| 徳川光友・綱誠の参勤交代 | 池ノ谷 匡祐 |
| 徳川光友の湯治とその背景－横須賀御殿における湯治を中心に－ | 萱田 寛也 |
| 『瑞龍公実録』にみる喧嘩と敵討 | 林 幸太郎 |
| 『瑞龍院様御代奉書并御書付類之写』について－内容紹介－ | 川島 孝一 |
| ・ 8月6日 徳川林政史研究所（対面・オンライン併用） | |
| 明治初期下総牧開墾と地域社会－豊四季村における東京窮民の動向を事例に－ | 鈴木 葵 |
| 明治前期における地方教育行政の変遷－静岡県下の小学校制度を事例に－ | 村上 博美 |
| 明治前期における合併村の村政構造－長野県下の合併村を事例に－ | 田口 拓海 |
| 紅葉山文庫における武家諸法度の保存と管理 | 高橋 喜子 |
| ・ 10月8日 徳川林政史研究所（対面・オンライン併用） | |

- 尾張徳川家の江戸屋敷の家臣『外宅』 渋谷 葉子
- ・ 11月8日 徳川林政史研究所（対面・オンライン併用）
『林政史ブックレット 尾張藩の林政と森林文化 5
森林利用の秩序と御山守・村』構想研究発表会 栗原 健一
高木 謙一
 - ・ 11月26日 徳川林政史研究所（対面・オンライン併用）
同郷会からみる近代の犬山城と成瀬家 林 幸太郎
 - ・ 12月6日 徳川林政史研究所（対面・オンライン併用）
近世中期加子母村における鳥糞生産の秩序形成 萱場 真仁
尾張徳川家「押付」養子に関する一考察 藤田 英昭
- ② 『金鯨叢書』第49輯（『研究紀要』第56号）の公刊
元禄時代の江戸城本丸御殿図再論 深井 雅海
一九世紀南部領の山林資源復元に関する試みについて 脇野 博
近世加子母村における鳥糞生産・流通と仕法形成 萱場 真仁
尾張領内御殿の存亡と機能（上） 原 史彦
尾張徳川家「押付」養子に関する一考察
一天保一〇年の遺領相続問題を中心に一 藤田 英昭
犬山城にみる近代の城郭と旧藩意識 林 幸太郎
活動報告 令和3年度の調査・研究・普及活動
所蔵史料目録 徳川林政史研究所所蔵 尾張徳川家文書目録（十八）
徳川林政史研究所所蔵 石河家文書目録（十四）
『金鯨叢書』第48輯（『研究紀要』第55号）寄贈・送付業務
印刷部数計550冊（うち、寄贈・交換計483冊）
- ③ 所蔵史料の編集・刊行
『史料纂集 瑞龍公実録』（八木書店）の編集・刊行
- ④ 史料調査の成果公開（ブックレット、史料集の刊行）
『林政史ブックレット 尾張藩の林政と森林文化 5 森林利用の秩序と御山守・村』の編集・刊行
『内木家文書 宝暦一三年「御山方御用并諸事日記」』の編集・刊行
- (4) 「尾張徳川史」編纂準備
- ① 『瑞龍公実録』編纂・刊行のための研究会を開催（1回）
 - ② 「事蹟録」（旧蓬左143-6）全128冊筆耕作業完了
 - ③ 「事蹟録」（旧蓬左143-6）全128冊データベース作成（1～20冊完了）
- (5) 尾張徳川家関連資料の調査・研究
古写真の研究・保全に資するため、アルバム所収古写真のデジタルデータ化を実施
- (6) 史料調査
- ① 林政史アーカイブズ調査
 - ・ 岐阜県中津川市加子母地域史料調査
a.6月18日～21日、b.10月1日～4日、c.3月11日～14日
 - ・ 弘前市立弘前図書館所蔵史料調査
12月8日～10日
 - ② 研究資料（複写・写真撮影資料を含む）の調査・収集
感染症拡大予防の観点から、出張による調査は中止したが、以下の史料データを収集した。
犬山城白帝文庫所蔵史料データ取得（6月21日、8月3日、10月15日）
名古屋市蓬左文庫所蔵史料データ取得（9月27日、2月4日）
徳川美術館所蔵史料データ取得（12月15日）

- ③ 収集史料データの整理および公開
なし

(7) 調査・研究における他機関との連携・協力

① 名古屋市蓬左文庫

当研究所所蔵史料の一部を、紙焼きおよびデジタルデータで提供し、名古屋市蓬左文庫での閲覧利用に協力した。

② 犬山城白帝文庫

犬山城白帝文庫と研究協力に関する覚書を取り交わし、調査・研究にあたり、紀要論文を執筆した。また、展覧会に所蔵史料を貸し出すなど、同文庫主催事業に協力した。

③ (公財)徳川記念財団

当研究所では、受託史料として、徳川宗家（旧将軍家）に伝来した史料、約 5,130 点を保管しており、これら伝来品の活用を図る目的で設立された、(公財)徳川記念財団が、調査・展示などで保管史料を利用する際には、史料出納をはじめ、調査への助言、閲覧室・写真撮影場所の提供、貸し出しの立ち会い等の協力を行っている。本年度は、同財団が実施した、展示事業・閲覧など、以下 2 件について協力した。

8 月 12 日 「徳川一門」展 21 点、「富士山」展 3 点 展示事業

11 月 8 日 「山内容堂」展 6 点 展示事業

その他、毎月 1 回、同財団職員等による書庫内作業に協力した。

④ 愛知県公文書館

愛知県史編さん委員会が、県史編さんのために収集した、当研究所所蔵史料の紙焼き（データ点数 11,356 点）を公開し、愛知県公文書館での閲覧利用に協力した。また、同館から依頼を受け、10 月 23 日開催の歴史資料講演会「尾張徳川家と尾張・名古屋」に、所員 2 名が出講した。

2. 史料・図書の整理

(1) 所蔵史料の整理

① 旧蓬左文庫所蔵絵図の整理・目録の作成

再整理し、総数 277 件のうち、計 277 件のカード目録を作成した（追加で編入する絵図を入力中）。

② 旧名古屋税務監督局所蔵史料の整理・目録作成

総数 3,312 件のうち、計 3,245 件の番号確定作業が終了した。

③ 信濃国木曾史料の整理・目録の作成

総数約 2,260 件のうち、計 2,245 件の目録を作成した。

④ 蜂須賀雨竜農場文書の整理・目録の作成

計 95 点のカード目録を作成した（状態の史料大多数につき、見積総数不明）

⑤ 徳川林政史研究所収集史料の目録の作成

総数約 6,400 件のうち、計 550 件の目録を作成した。

(2) 所蔵史料の目録刊行

① 尾張徳川家文書目録（十八）を、『金鯨叢書』第 49 輯（『研究紀要』第 56 号）に収録刊行した。

② 石河家文書目録（十四）を、『金鯨叢書』第 49 輯（『研究紀要』第 56 号）に収録刊行した。

(3) 所蔵史料データベースの構築および保存

① 所蔵史料データベースの構築

- ・ 尾張徳川家文書のデータベース化

「尾 5」523 点のデータを入力した（「尾 5」終了。見積総数 10,178 点のうち、計 9,028 点完了）。

- ・ 尾張藩奥医師野間林庵文書のデータベース化

総数 355 点のうち、計 355 点のデータを入力し、作業が完了した。

- ・ 尾張国海西郡史料のデータベース化

総数 635 点について、「鯛浦村木下家文書」(計 54 点)、「鯛浦村服部家文書」(計 317 点)、「海西郡史料」(計 264 点)に仕分け、データ入力作業を完了した。

- ・ 三河国額田郡小呂村文書のデータベース化
全 58 点のうち、1~50 点のデータを入力した。
- ② 目録データベースの検索・活用方法ならびに公開体制(ホームページでの検索システム構築)の検討
 - ・ 三河国加茂郡各村文書(石畳村・打越村・梅ヶ坪村)および同国設楽郡大草村文書を、ホームページの史料検索システムに新規搭載した。
 - ・ 尾張徳川家文書・石河家文書のデータ入力分を、史料検索システムに追加搭載した。

(4) 史料のデジタルデータ化

- ① 所蔵古写真(アルバム所収分)のデジタルデータ化(計 55 点、55 カット)
- ② 所蔵史料のデジタルデータ化
 - ・ 外部委託
デジタル撮影「御花畑之絵図」ほか、計 20 点、405 カット
マイクロ撮影およびスキャニング「三浦・三ヶ村御山守御山守御用状留」ほか、計 5,028 コマ
マイクロフィルムデジタルデータ化「加子母村記録」ほか、計 9 本 2,463 コマ
 - ・ 自館でのデジタルデータ化(デジタルマイクロリーダープリンター導入による)
旧蓬左「塵点録」「綱吉公綱誠公麴町亭御成略記」、石河家文書「石河家家士記録」ほか、計 7,979 コマ
 - ③ 調査収集史料写真のデジタルデータ化
犬山城白帝文庫所蔵史料(デジタルデータ計 1,405 コマ)
名古屋市蓬左文庫所蔵史料(デジタルデータ計 69 コマ)

(5) 史料の購入・補修(活動支援基金)

- ① 購入
なし
- ② 補修
綴じ紐劣化史料の紐綴じ直し補修 70 冊(旧蓬左文庫所蔵史料「御記録」)

(6) 書庫内の整理ほか保存環境の保全

(7) 研究用図書 of 整理

- ① 図書整理
前年度に引き続き、図書・雑誌のコンピューター入力を進め、新着図書 293 冊に対し、ラベル貼付並びに入力作業を行った。
- ② 図書の購入・受贈
図書は、『石川県林業史』等 76 冊を購入。その他寄贈された図書 217 冊。
雑誌は、『歴史学研究』等 151 冊を購入。その他寄贈された雑誌 275 冊。

3. 教育・普及

(1) 講座・講演

- ① 徳川美術館「古文書入門講座」

6月19日	幼少当主を支えた付家老一成瀬正寿を中心に一	深井 雅海
7月3日	天保期の風俗と『関八州教諭状』	佐藤 孝之
7月10日	若き殿様 徳川斉温の江戸名所めぐり	白根 孝胤
7月17日	飛驒郡代豊田友直の天保林政改革	萱場 真仁
7月31日	徳川斉荘の岐阜紀行(1)	藤田 英昭
7月31日	徳川斉荘の岐阜紀行(2)	藤田 英昭
- ② 徳川林政史研究所公開講座・豊島区教育委員会共催

- | | | |
|--------------------------------------|---------------------------|----------------------|
| 9月5日 | 徳川光友ーその人と時代ー | 藤田 英昭 |
| 9月5日 | 尾張藩士の喧嘩と敵討 | 林 幸太郎 |
| ③ 徳川美術館「江戸学講座」 | | |
| 12月4日 | 江戸城ー尾張藩主の登城ー | 深井 雅海 |
| 1月22日 | 名古屋城ー殿様の日常と御殿・庭園ー | 白根 孝胤 |
| 1月29日 | 犬山城ー近代の成瀬家と「犬山」の人びとー | 林 幸太郎 |
| 2月5日 | 二条城ー幕末の将軍上洛と徳川慶勝ー | 藤田 英昭 |
| ④ その他の講演 | | |
| ・ 深井 雅海 | | |
| 5月29日 | 江戸城の構造とその仕組み | 学習院さくらアカデミー |
| ～全3回 | | |
| 9月16日 | 享保の改革 | 調布市日本史を学ぶ会 |
| ～全2回 | | |
| 9月18日 | 将軍直属の隠密御庭番の探索報告書 | 埼玉県立嵐山史跡の博物館企画展関連講演会 |
| 10月23日 | 名古屋城における尾張藩主について | 愛知県公文書館歴史資料講演会 |
| 11月6日 | 徳川将軍が話した言葉とは？ | 学習院さくらアカデミー |
| ～全2回 | | |
| 11月18日 | 人相書の伝達と捕縛 | 調布市日本史を学ぶ会公開講座 |
| 12月16日 | 田沼の政治 | 調布市日本史を学ぶ会 |
| ～全2回 | | |
| ・ 藤田 英昭 | | |
| 9月18日 | 徳川慶喜と幕末志士の群像 | 明海大学オープンカレッジ |
| 10月23日 | 徳川林政史研究所と所蔵史料 | 愛知県公文書館歴史資料講演会 |
| 12月3日 | 川村恵十郎と徳川慶喜 | 東洋大学人間科学総合研究所（オンライン） |
| 3月6日 | 徳川家による江戸無血開城 | 明海大学オープンカレッジ |
| ・ 萱場 真仁 | | |
| 10月1日 | 内木家文書にみる濃州三ヶ村の林産物生産 | |
| | 岐阜県歴史資料保存協会 東濃地区研修会 | |
| (2) 外部機関などとの連携 | | |
| 11月29日 | 東京大学大学院農学生命科学研究科「森林政策学演習」 | 受講生・教員 |
| (3) ホームページによる情報発信 | | |
| ホームページの全面リニューアル作業を終了し、本年度4月から新規公開した。 | | |
| (4) 出講・受嘱 | | |
| ① 出講 | | |
| 大東文化大学 | 日本近世・近代史史料演習 A・B（前期・後期） | 藤田 英昭 |
| | 日本史概説 A・B（前期・後期） | 藤田 英昭 |
| | 日本通史 A・B（前期・後期） | 藤田 英昭 |
| 学習院女子大学 | 学習院史 I（前期） | 藤田 英昭 |
| 学習院大学 | 古文書学演習（前期・後期） | 萱場 真仁 |
| 学習院女子大学 | 学習院史 II（後期） | 萱場 真仁 |
| ② 受嘱 | | |
| | 大田区立勝海舟記念館資料収集評価委員会委員 | 藤田 英昭 |

4. 若手研究者の育成

- (1) 非常勤研究員・研究生による研究会の開催

感染症拡大予防の観点から、夏季および春季の研究集会は、オンラインで開催した。

(2) 非常勤研究員・研究生による史料整理・目録作成作業

感染症拡大予防の観点から、夏季集中史料整理は中止したが、春季集中史料整理は、在宅作業によるデータ入力の形態で実施した。

(3) 非常勤研究員・研究生の名古屋研修の実施

感染症拡大予防の観点から、中止とした。

(4) 在宅作業業務

新型コロナウイルスの感染状況の終息が見られない中、実施を継続し、古文書史料の翻刻を、非常勤研究生に依頼した。翻刻者には、月に1回程度の出勤を促し、研究員が解説の指導に当たった（翻刻史料は、「礼物軌式」「事蹟録」「御山方御用并諸事日記」など）。

5. 閲覧・出陳・レファレンス業務

(1) 史料閲覧

閲覧許可数は24件、延べ閲覧者数は34人。

※ 感染症拡大予防の観点から、閲覧時間の短縮を継続して対応した（8月17日～10月18日までは閲覧受入停止）。

(2) 所蔵史料の出陳

① 「特別展 家康から義直へ」（徳川美術館）

会期：7月17日～9月12日

出陳史料名：木曾谷并三ヶ村之図ほか、3件、7点

② 「企画展 実相 忍びの者」（埼玉県立嵐山史跡の博物館）

会期：7月27日～9月24日

出陳史料名：古案第三冊、1件、1点

③ 「秋季特別展 尾張姫君ものがたり」（徳川美術館）

会期：9月18日～11月7日

出陳史料名：国秘録・尾州二之丸御指図ほか、13件、19点

④ 「特別展 飯能縄市」（飯能市立博物館）

会期：10月17日～12月12日

出陳史料名：関八州田舎分限角力番附、1件、1点

⑤ 「特別展 犬山城主成瀬家の家臣たち」（犬山城白帝文庫）

会期：10月21日～12月9日

出陳史料名：中野熊助文書のうち、4件、4点

(3) 所蔵史料写真の貸し出しおよび複写サービス

① 所蔵史料写真の貸出および複写

受付総件数計99件（当研究所直接受付80件、愛知県公文書館受付紙焼き史料複写申請19件）

② 蓬左文庫受付の二次複写申請

受付総件数計3件（DVDからの複写0件、紙焼き史料複写3件）

(4) レファレンス対応

閲覧来所者および電話でのレファレンスに対応した。

6. 補助金関係

(1) 科学研究費助成事業（科学研究費補助金、特定奨励費）

申請者：（公財）徳川黎明会徳川林政史研究所

研究事業名：近世・近代における持続可能な森林経営に関する調査・研究・普及事業

交付機関：（独）日本学術振興会※

交付金額： 10,400,000 円

※ 平成 26 年度より、特定奨励費の交付業務は、文部科学省から(独)日本学術振興会へ移管されている。

(2) 特定奨励費以外の科学研究費助成事業

① 科学研究費助成事業（科学研究費補助金）

研究種目： 基盤研究(A)

研究課題名： 高雄曼荼羅の復元と空海の造形観の研究

交付機関： 京都国立博物館 ((独)日本学術振興会)

交付金額： 130,000 円

研究分担者： 徳川美術館 学芸部学芸員 安藤 香織

② 科学研究費助成事業（科学研究費補助金）

研究種目： 基盤研究(A)

研究課題名： 戦国軍記・合戦図の史科学的研究

交付機関： 共立女子大学 ((独)日本学術振興会)

交付金額： 250,000 円

研究分担者： 徳川美術館 学芸部学芸員 薄田 大輔

③ 科学研究費助成事業（科学研究費補助金）

研究種目： 基盤研究(B)

研究課題名： 地域社会史の視座に立った旧藩社会の統合的研究－「旧藩地域社会論」をめざして－

交付機関： 中央大学 ((独)日本学術振興会)

交付金額： 300,000 円

研究分担者： 徳川林政史研究所 研究員 藤田 英昭

④ 科学研究費助成事業（科学研究費補助金）

研究種目： 基盤研究(B)

研究課題名： 江戸武家地の成熟過程に関する建築史・都市史的研究

交付機関： 筑波大学 ((独)日本学術振興会)

交付金額： 金額：120,000 円（令和 2 年度繰越分）

研究分担者： 徳川林政史研究所 非常勤研究員 渋谷 葉子

(3) その他の競争的資金および民間助成金等

助成金名： 公益財団法人上廣倫理財団教育・研究・活動助成金

申請者： 徳川林政史研究所 所長 深井 雅海

事業名： 歴史学研究の発展に貢献できる若手研究者の育成

助成機関： (公財)上廣倫理財団

交付金額： 5,000,000 円

7. 事業評価委員会の開催

3 月 16 日、外部委員による事業評価委員会により、当研究所が実施した、令和 3 年度事業について、評価・講評を受けた。(感染症拡大予防の観点から、紙面による評価となった)。

8. 資産の取得

(1) 什器備品

なし

(2) 図書

購入 76 冊、受贈 111 冊

9. 設備管理

建物・設備の営繕工事等

- ・ 空調設備 3FAC-3 系統室外機基盤交換修理
- ・ 本部建物屋上防水保護塗装および屋上機械室鉄扉等再塗装
- ・ 本部建物 1 階 3 号蔵扉修繕
- ・ 本部建物 1 階廊下天井・壁防黴塗装

10. 活動支援基金

(1) 寄附金受付業務

前年度に引き続き、当研究所の実施事業を対象にした募金活動を行った。本年度の実績は、以下のとおりである。

寄附結果 330,000 円（法人 0 件（0 口）、個人 19 件（33 口））

(2) 寄附金の使途

史料補修（前掲 2.(5)②）綴じ紐劣化史料の紐綴じ直し補修 70 冊（旧蓬左文庫所蔵史料「御記録」）

Ⅲ.収益事業

[収益事業 1] 不動産賃貸事業（本部・総務部）

不動産賃貸

外国人向け住宅の賃貸（全6棟）

[収益事業 2] ミュージアムショップ・宝善亭等の運営事業（徳川美術館）

1. ミュージアムショップの運営

本年度の売上は、大幅に増加し、前年度対比374%となった。主な要因は、以下のとおり。

- ・ 前年度は、感染症拡大予防の観点から、臨時休館を行ったこともあり、売上の大幅な減少をみていた。
- ・ 6月～9月、刀剣乱舞とのコラボレーション企画を実施し、新作オリジナルグッズの売り上げが増加した。
- ・ SNSによる商品告知を積極的に行い、オンラインショップの活用が促進された。
- ・ 東京、大阪の大規模小売店舗における期間限定出店を積極的に実施した。
- ・ 11月13日～12月12日、「国宝 源氏物語絵巻」館蔵全巻公開の関連グッズの売り上げが増加した。
- ・ 4月下旬～9月中旬の間、美術館前広場にある無料休憩所（旧「ショップ葵」）を、美術館第二売店として期間限定で運用、主に刀剣グッズを購入されるお客様の密回避と、待機列の解消を図った。

2. 宝善亭・コーヒーラウンジの利用促進

- ・ 展覧会のテーマに合わせたメニューの開発やコラボレーション企画の実施、WEB サイトや SNS 等での広報・宣伝に努めたことにより、それぞれの売上は、宝善亭においては、対前年度比171%、コーヒーラウンジにおいては、対前年度比480%となった。
- ・ 宝善亭では、「刀剣乱舞—ONLINE—」とのコラボレーション期間中、コラボレーション記念御膳を提供、また、「国宝 源氏物語絵巻」の公開期間には、源氏御膳を提供した。
- ・ コーヒーラウンジでは、年度を通じて、展覧会に合わせたオリジナルスイーツを提供したほか、既存の刀剣スイーツをミニチュア化したセットを限定で提供するなど、新しい試みを実施した。

事業報告の附属明細書

令和3年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないため、作成していない。